

教員養成課程における国際交流を通じた新たな視点の獲得

山田 有希 (10115120)

1. はじめに

近年、急速なグローバル社会の進展に伴い、諸外国との交流や協力が重要になっている^[1]。また、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成が求められており、初等中等教育を通じたグローバル人材育成の観点から、教員としての資質・能力が問われている。教員のグローバルな見方・考え方を養うために、海外交流授業などが実践されているが^[2]、すべての教員に対して海外交流授業などの機会を提供することは現実的ではない。したがって、教員養成課程の段階で国際交流や国際経験の場を提供することは意義があると言えよう。一方、大学生を対象とした国際交流学習の事例が多数挙げられているものの、教員の資質・能力の向上をねらいとした研究は希少である。

そこで、本研究は教員養成課程の学生を対象とした国際交流学習を実践し、教師教育における本実践の意義について検討することを目的とした。

2. 実践方法・評価方法

本研究では、シリア難民であるA氏と日本とアメリカとのダブルであるB氏の2名を大学に招き、国際交流学習を実施した。図1にシリア難民A氏による講話の様子を示す。調査対象は、教員養成課程の学生11名、教職大学院生11名の計22名であった。国際交流学習の内容は、A氏による「内戦・シリア難民」についての講話、質疑応答、グループ議論、B氏による「海外旅行での経験」についての講話、「ダブルであることによる苦悩」に関する議論、グループ議論であった。本実践終了後に、参加者を対象としたアンケート調査を実施し、自由記述によって得られた回答をカテゴリーに分類し集計した。また、参加者のうち、5名を対象にインタビュー調査を実施し、発言をカテゴリーに分類した。さらに、グループ議論の発言を抽出し、アンケートやインタビューから得られた結果に対する補足とした。



図1 シリア難民A氏による講話の様子

3. 結果・考察

アンケート項目の「本日の講話は教師として役に立つ」において、すべての参加者から肯定的な回答を得た。また、自由記述の回答例として、「教師の視点で考えられた」、「教師として役に立つ」などが挙げられた。したがって、多くの学生が今回の国際交流学習を教育と関連させて考察したことが示された。

また、「自分が体験したことは言える」、「実際に人の話を聞いた方が分かる」の発言から、自らが体験することで、国際交流学習を教育に取り入れる利点や重要性を感じたことが示唆された。しかしながら、大学での国際交流を定常的に実践することは容易ではない。したがって、ICT機器を利用した遠隔交流学習を設けるなど、学習環境の支援などが必要である。

また、アンケート調査やインタビュー、グループ議論での発言において、「新たな視点の獲得」に関する言及が多かった。インタビューでは、「新しい発見があった」などの発言が挙げられた。さらに、教育と関連させて考察した学生も多く、本実践は教師としての視野の広がりをもたらし交流であったことが示唆された。したがって、本実践のような国際交流学習はグローバル社会に対応できる教員の資質・能力の育成に寄与し得ると考えられる。

一方、「教育に活用する難しさ」について多くの意見が述べられた。特に、現職教員は「評価の仕方が分からない」、「先生の解釈で伝わり方が違う」など、授業や子どもの実態などを踏まえた具体的な難しさについて述べた。したがって、教員養成段階での国際交流学習における授業デザインや評価の観点などについても検討していく余地がある。

4. まとめ

本研究では、教員養成課程の学生を対象とした国際交流学習を実践し、教師教育における本実践の意義について検討することを目的とした。アンケートによる主観評価やインタビューおよび、グループ議論による発言から、今回の国際交流学習は、直接交流の重要性を認識させ、教師としての新たな視点の獲得を促すことが示唆された。したがって、本実践のような国際交流学習は、グローバル社会に対応できる教員の資質・能力の育成に寄与し得ることが示された。

今後の課題は、教員養成課程の学生に対し、ICT機器を利用した遠隔交流学習を設けるなど、学習環境の支援や、教員養成段階での国際交流学習における授業デザインや評価の観点などについて検討することである。

参考文献

- [1] 文部科学省 (2017) 平成29年度文部科学白書“第10章 国際交流・協力の充実” http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201801/1407992_017.pdf (参照日 2019. 1. 24)
- [2] 朝倉淳, 小原友行, 深澤清治, 松浦武人, 松宮奈賀子 (2015) グローバル教員に求められる資質に関する研究—海外での授業実践による自己変容を中心に—, 広島大学大学院教育学研究科共同プロジェクト報告書, (13) : 71-76

(指導教員 瀬戸崎 典夫: 初等教育講座)